J R 四国労組ニュース

平成29年10月26日（No.7）

発行責任者／中濱 斉

編集責任者／森安 祐貴

年末手当交渉（1回目）

組合のスタンスを強く訴える！

J R四国労組は本日、年末手当等の1回目の団体交渉を行い、10月17日に申し入れた申第8号、申第9号及び申第10号について主旨説明を行った。

【申第8号 「平成29年度年末手当の要求」について】

- 1 要求額 基準内賃金の2.3カ月分
- 2 加算額 年末手当の基準日において、55歳以上の組合員に30,000円加算
- 3 支払日 平成29年12月8日（金）

【申第9号 「準組合員（エキスパート社員）の年末一時金の要求」について】

- 1 基礎額 基本賃金及び高年齢調整手当の合計額に2.7を乗じた額
- 2 加算金 準組合員（エキスパート社員）全員に10,000円加算
- 3 支払日 平成29年12月8日（金）

【申第10号 「準組合員（契約社員）の年末一時金の要求」について】

- 1 パートナー社員（月給・日給適用者）の要求額

(1) 基礎額

調査期間内の勤務日数	四国地区	大阪地区	列車乗務員	アテンダント	客室乗務員
65日以上120日未満	79,000円	99,000円	88,000円	88,000円	82,000円
120日以上	158,000円	198,000円	176,000円	176,000円	164,000円

(2) 加算額

基礎額該当者で契約更新が3回以上ある準組合員（契約社員）に10,000円加算

- 2 支払日 平成29年12月8日（金）

◎ 組合からの主旨説明（要旨）

会社を取り巻く経営環境は、他交通機関との競争激化等により依然厳しい状況ではあるが、鉄道運輸収入は堅調に推移している。

これは、J R四国労組が「労使共同宣言」の理念に基づいた労使関係を基軸として、「安全・安定輸送の確立」を第一義に、収入の確保に向けた営業施策に協力するとともに、各種経費節減及び業務の効率化に理解を示し、要員の確保が厳しい状況下においても、組合員がそれぞれの持ち場で力を発揮してきた結果である。また、「四国まんなか千年ものがたり」の運行開始、「四国デスティネーションキャンペーン」の開催や「えひめ国体」の開催など、多彩なイベントにあわせ、地域の協力を得ながら鉄道の利用促進とサービスの向上といった会社施策にも積極的に取り組んだほか、政策課題の解決に向けても取り組んできた。

組合員の生活にとって期末手当は極めて重要な位置づけであることから、日夜懸命に奮闘している組合員の努力に報い、今後一層の勤労意欲の向上に資するためにも、会社として誠意ある回答をするよう強く要請する。

● 主旨説明に対する、会社側の考え方

会社の体力及び貴側の要求主旨を踏まえながら、鋭意検討していくこととする。

以上